

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)ホテル京都二条 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	評価点		重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温									
2 外皮性能									
3 ソーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 屋光利用									
1 屋光率									
2 方位別開口									
3 屋光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 屋光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御									
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観 (天井高)									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画									
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計									
2 維持管理用機能の確保									
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震・制震・制振									
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									
2 免震・制震・制振性能									
2.2 部品・部材の耐用年数									
1 躯体材料の耐用年数									
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									
6 主要設備機器の更新必要間隔									

2.4 信頼性					2.2	0.20			
1	空調・換気設備				1.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				2.0	0.20			
3 対応性・更新性					2.8	0.30	2.0	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり							1.0	0.50	
1	階高のゆとり						1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)				1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり							3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					2.8	1.00			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		2.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)						0.30			2.6
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	景观認定証	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30			2.5
3.1	地域性への配慮, 快適性の向上	●とも 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性									3.5
LR1 エネルギー						0.40			4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制				[BPIm]0.86	4.4	0.22			4.4
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)						
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.68	5.0	0.56			5.0
4 効率的運用					3.0	0.22			3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00			
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
集合住宅の評価									
4.1	モニタリング								
4.2	運用管理体制								
LR2 資源・マテリアル						0.30			3.0
1 水資源保護					3.0	0.20			3.0
1.1 節水					3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減					3.1	0.60			3.1
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	躯体と仕上げ材が容易に分別可能	4.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70			
1	消火剤								
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境						0.30			2.9
1 地球温暖化への配慮				LCCO2削減率73%	4.0	0.33			4.0
2 地域環境への配慮					2.2	0.33			2.2
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制				1.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					2.7	0.33			2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	0.50			
2	振動								
3	悪臭				3.0	0.50			
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制								
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					1.6	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる